

腫瘍マーカー

体内に腫瘍ができると血液中や分泌物中に蛋白質や酵素、ホルモンなどの特別な物質が増えてきます。それが腫瘍マーカーです。腫瘍の種類や発症部位に特有の物質とそうでないものがあり、腫瘍の存在や種類、進行の程度を知る上で有用な検査です。

しかし、腫瘍マーカーの値が高くても確実に腫瘍が存在することを示すものではありません。また、発症臓器の特定や、良性悪性の判断をすることはできませんし、生活習慣などで異常値を示すこともあります。

しかし、複数の腫瘍マーカーを併用することによりこのような欠点を補うことができます。

腫瘍マーカー	臓器（癌）	備考	基準値
A F P	肝細胞癌	肝硬変・慢性活動性肝炎・胃癌・膵癌・妊娠で高値傾向	0～20.0ng/ml
C E A	消化器（食道・胃・直腸）	高齢・喫煙で偽陽性になる	0～5.0ng/ml
C A 15-3	乳癌（進行性乳癌に有用）	子宮内膜症・骨盤炎症性疾患・肝炎で高値傾向	0～27.0U/ml
C A 125	卵巣癌・子宮癌	妊娠初期・月経時・閉経前に一過性に上昇	0～35.0U/ml
C A 19-9	消化器（膵臓・胆道）	糖尿病・慢性肝炎・胆石症などで偽陽性	0～37.0U/ml
D U P A N-2	消化器（膵臓・胆道・肝臓）	良性疾患で偽陽性を認める場合がある	0～150U/ml
P I V K A II	肝臓癌	肝硬変・慢性肝炎・肝外性閉塞性黄疸などで偽陽性	0～40mAU/ml
P S A	前立腺癌	前立腺肥大でも高値になるため鑑別の必要	0～4.000ng/ml
P A P	前立腺癌	前立腺肥大でも高値になるため鑑別の必要	0～3.0U/l
S C C	子宮頸部、肺の扁平上皮癌		0～1.5ng/ml
γ-S m	前立腺癌	前立腺肥大で偽陽性	0～4.0ng/ml
T P A	広範囲の悪性腫瘍	胆石症・膵炎・肺炎・インフルエンザ・前立腺炎などの良性疾患での偽陽性がある	0～74.9U/l